



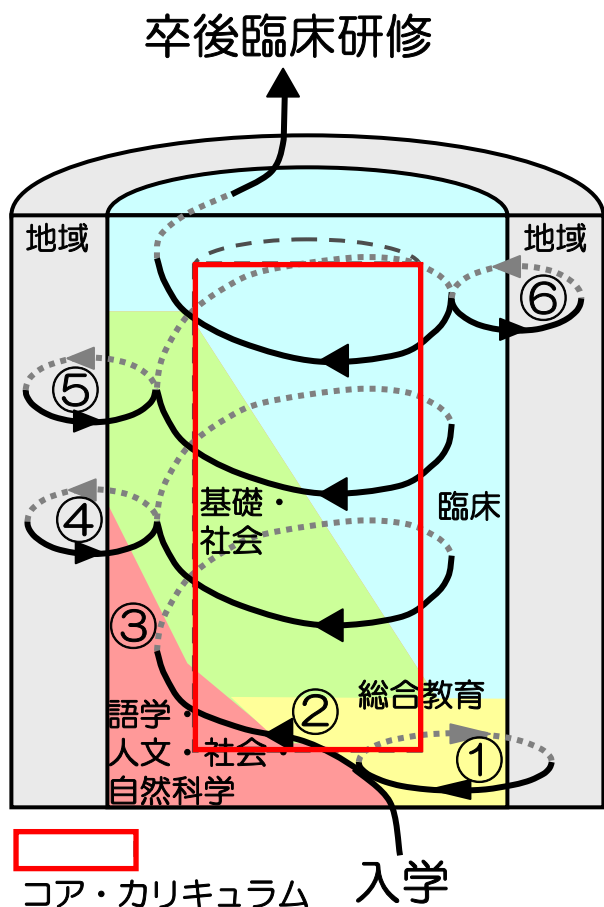
6年一貫らせん型カリキュラムの実践

人と人、総合科学と医学、
大学と地域の融合を目指して

福島県立医科大学・医学部



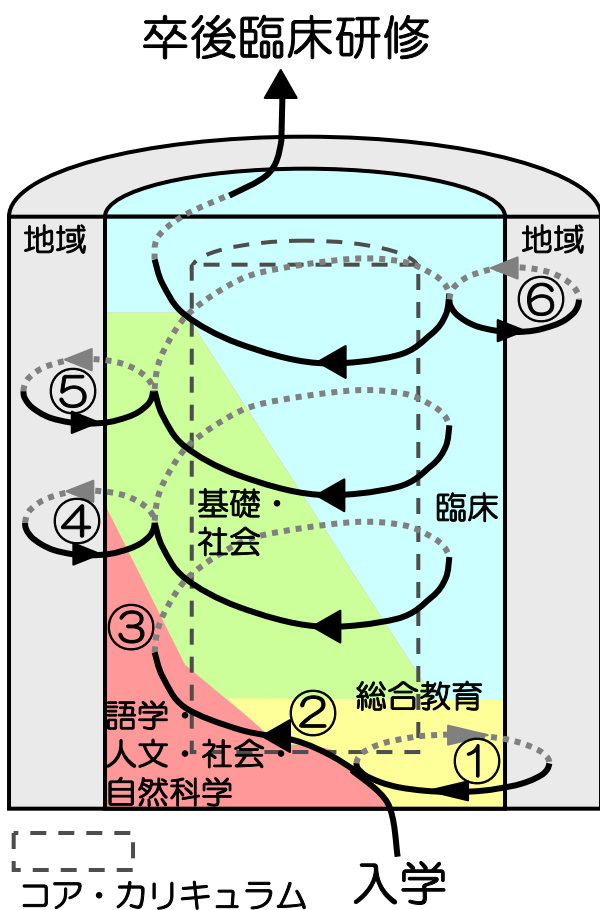
6年一貫らせん型カリキュラム



- **コア・カリキュラム**の導入を契機として、講義を講座別講義からコースユニット制、臓器別講義に再編しさらに、その周辺に本学独自の発展的カリキュラムを**らせん型**に配置
- らせん型とは、総合科学系科目（教養科目）、生命科学・社会医学系科目（基礎医学）、臨床医学系科目を、緊密に行き来しながら、学生の成長・習熟度に合わせて**繰り返し発展的に学ぶ**形である



コアカリ改訂に係る検討に関連した取組状況



A) 基礎と臨床の有機的連携による研究マインドの涵養

「**基礎上級**」(4-5年次)等

B) 地域の医療を担う意欲・使命感の向上

「福島学」(1年次)

「**ホームステイ型医学教育研修プログラム**」
(6年次選択)等

C) 基本的診療能力の確実な習得
(総合的な診療能力の基礎育成)

スキルラボを活用した

「**BSLプライマリーコース**」(5年次)

「**BSLアドバンストコース**」(6年次)

※これらのカリキュラムを円滑に実施するための

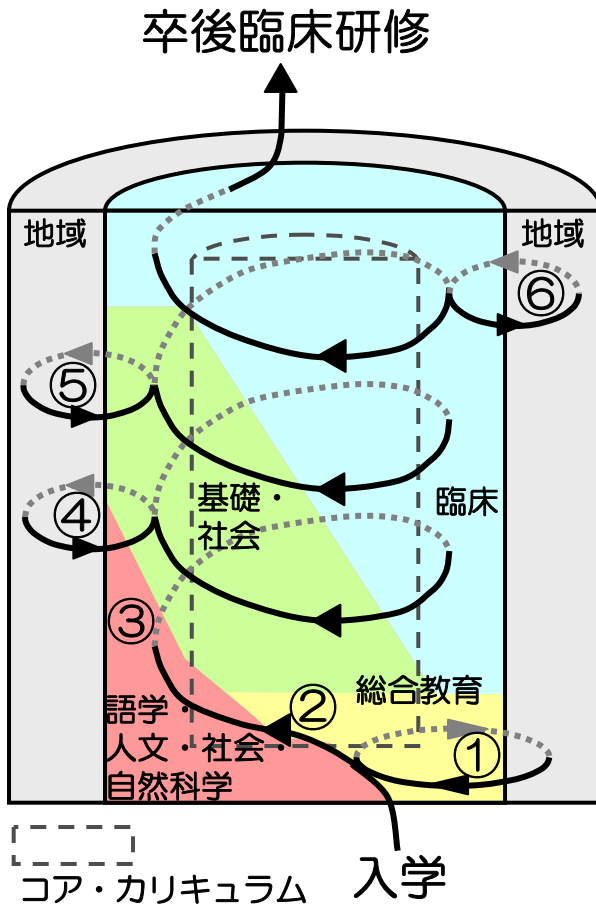
医療人育成・支援センターの設立

• ○内の数字は学年

• **赤字**は特に
独自性が高い取り組み



A) 基礎と臨床の有機的連携による 研究マインドの涵養



問題点

系統講義や、実験・実習のみでは「自ら問題を発見し解決する能力」を涵養するのには不十分である。



A) 基礎と臨床の有機的連携による研究マインドの涵養

「基礎上級」 (4-5年次)

- ○内の数字は学年
- **赤字**は特に独自性が高い取り組み



基礎上級 概要

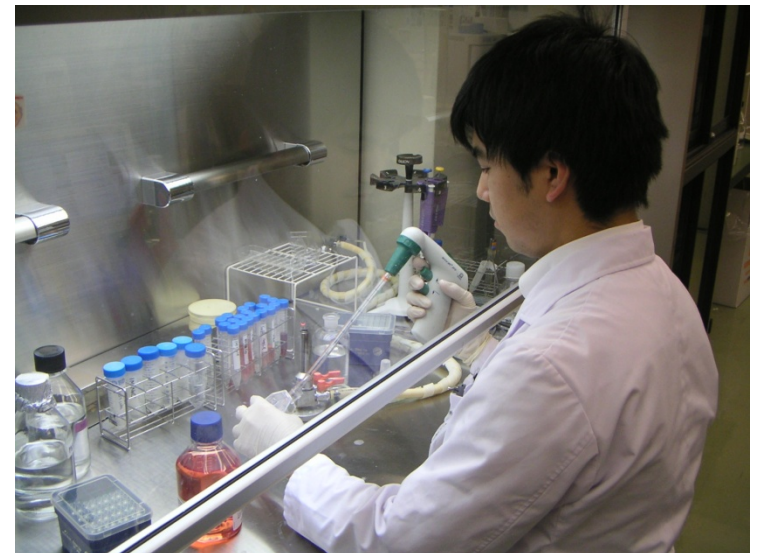
A)基礎と臨床の有機的連携による
研究マインドの涵養

系統講義終了後、**臨床実習直前**に8週間、生命科学・社会医学系講座に配属され、医学研究を体験（この間、他の講義や実習は行われない）

身につけた知識や問題意識を基に、担当教員とディスカッションしテーマを選定して、**問題の解明・解決に向けた実験やフィールドワーク**を行う。

武漢大学への短期留学も
選択可能（希望者より選抜）

35年間の**長期実績**がある。

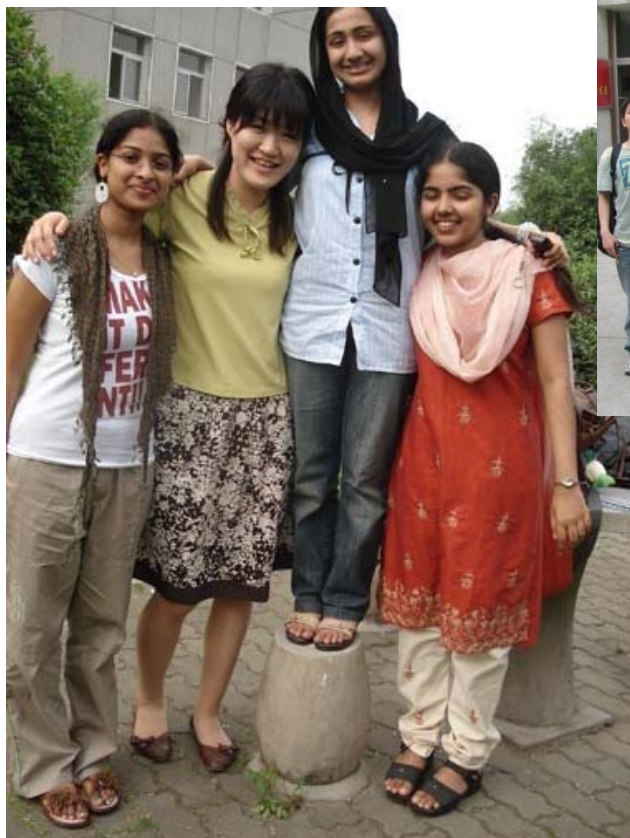




基礎上級:武漢大学短期留学

A)基礎と臨床の有機的連携による
研究マインドの涵養

- ・ 姉妹関係にある武漢大学の基礎医学・社会医学系講座に短期留学。（希望者より選抜）





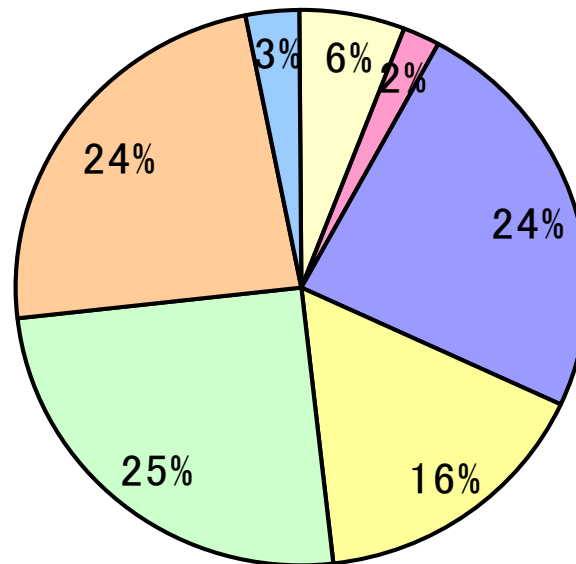
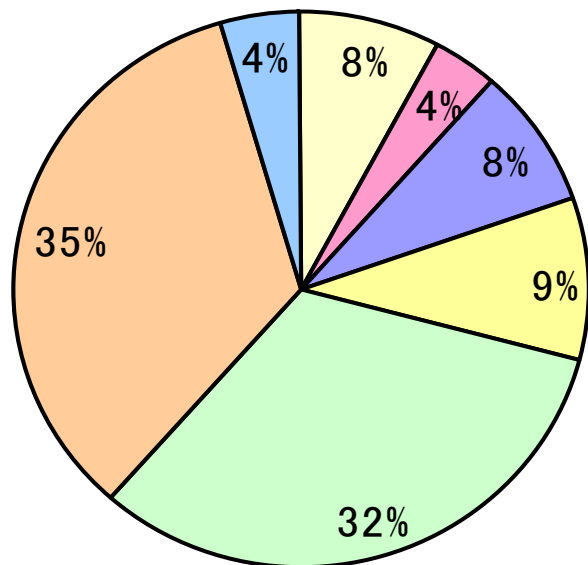
基礎上級の教育効果

A)基礎と臨床の有機的連携による
研究マインドの涵養

基礎上級がどのように役に立ったか

卒後10年未満

卒後10年以降



- 1 学会・研究会発表
- 2 論文作成
- 3 問題発見・問題解決能力態度
- 4 自己学習(生涯教育)
- 5 科学研究の認識や動機づけ
- 6 基礎医学との交流
- 7 その他

臨床経験が進むと問題発見・問題解決に役立つカリキュラムであったことが理解できてくる。



B) 地域の医療を担う意欲・使命感の向上

卒後臨床研修

問題点

大学の中にいるばかりでは、地域や地域医療に関する実感的な経験が得られない。

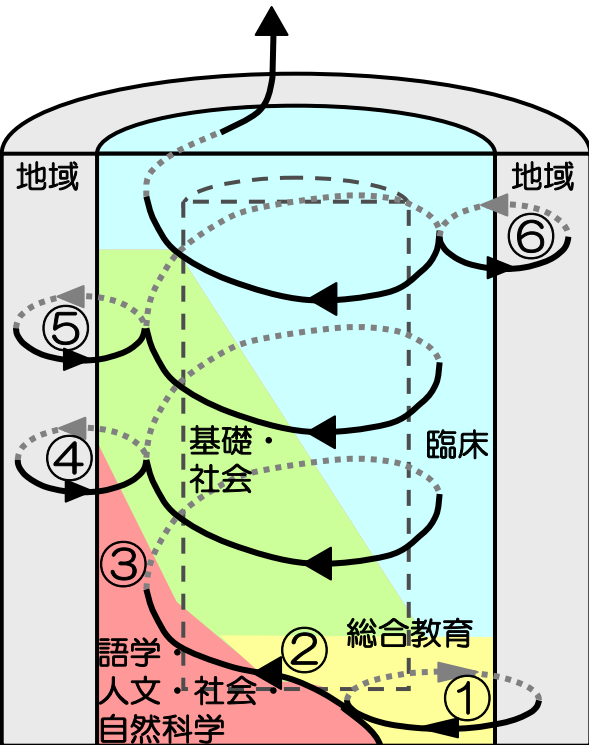


B) **ホームステイ型医学教育研修プログラム** (6年次選択)

H16 現代的教育ニーズ取組支援プログラム
(**現代GP**)

H17-H19 地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム
(**医療人GP**)

H20 以降 **福島県が継続して実施**



コア・カリキュラム 入学

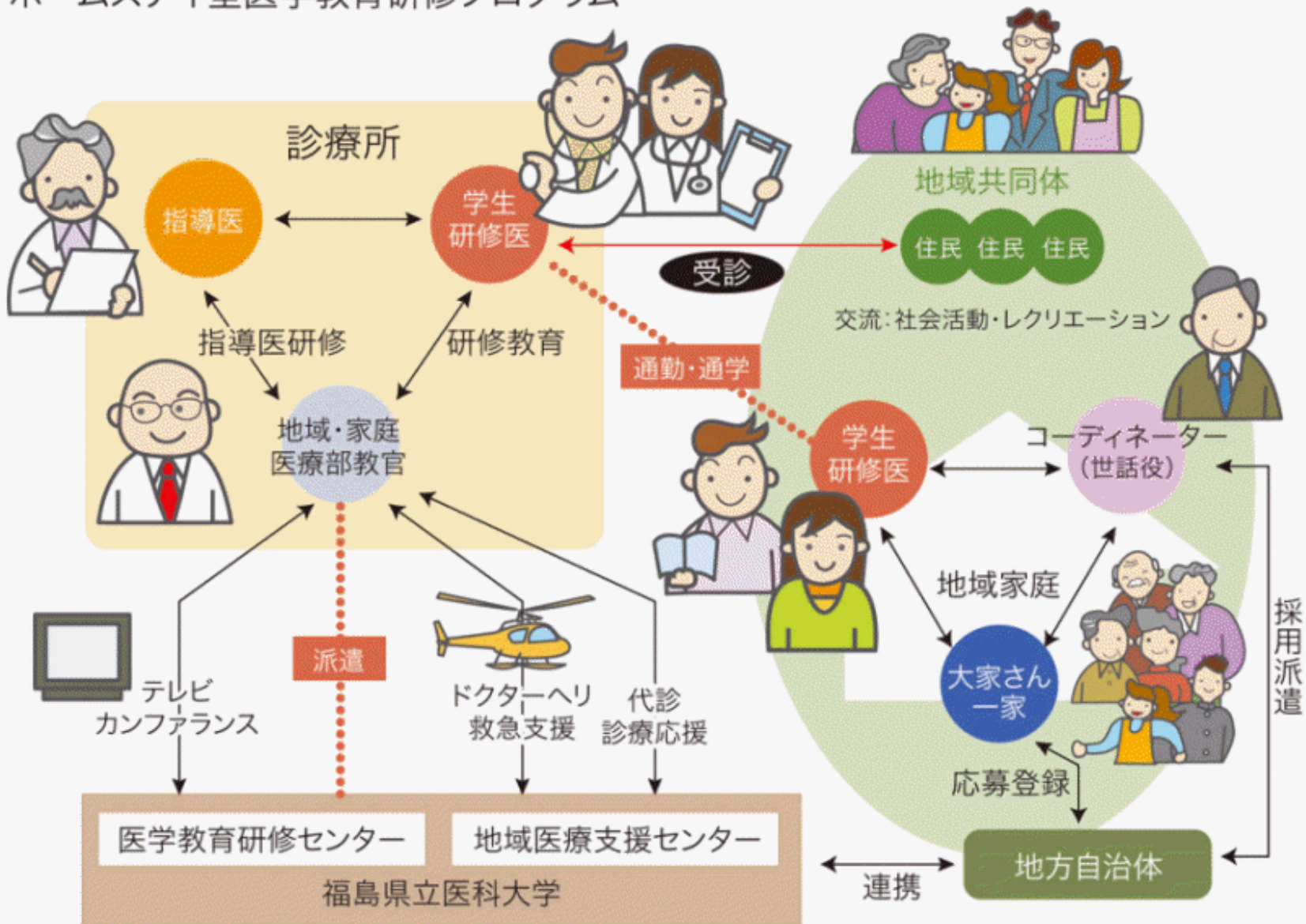
- ○内の数字は学年
- **赤字**は特に独自性が高い取り組み



ホームステイ型医学教育研修プログラム

B) 地域の医療を担う
意欲・使命感の向上

ホームステイ型医学教育研修プログラム





ホームステイ型 医学教育研修プログラムの特徴

B) 地域の医療を担う
意欲・使命感の向上

1. 地域家庭でのホームステイ

- ・ 実習外での交流により**地域の魅力発見**の機会(**現代版下宿**)



2. 現地指導教員の派遣

- ・ 地域・家庭医療部教員が現地で指導を行い、**実習の質**を確保



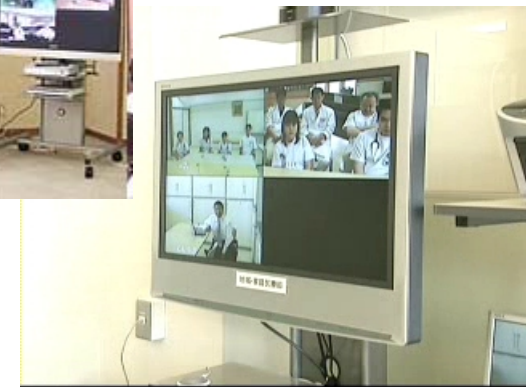
3. テレビ会議システムの整備

- ・ 実習先診療所と大学間で生の言葉で**双方向に情報伝達**が可能に。



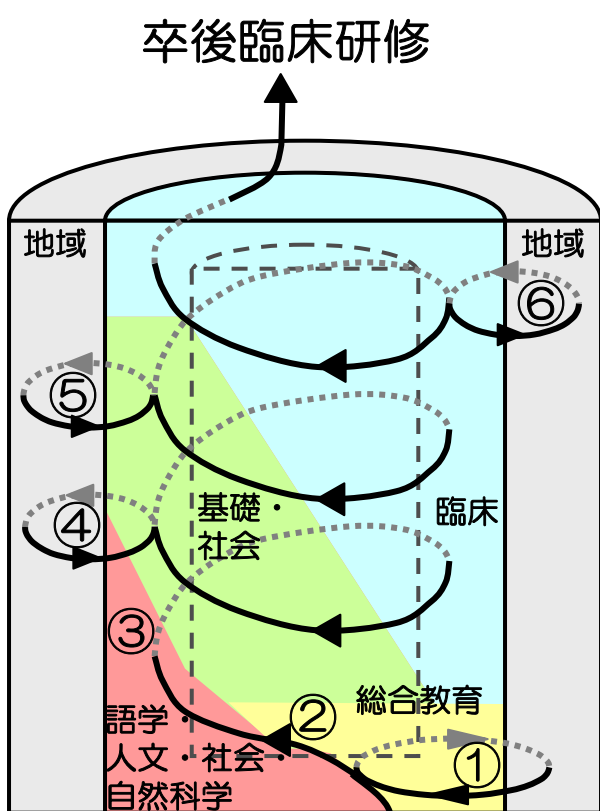
4. 地域住民の医療従事者に対する理解の促進

- ・ 医学生が身近に生活することで**医療従事者への理解**が深まる。





C) 基本的診療能力の確実な習得



問題点

基礎的臨床能力の習得には時間がかかり
また、習得に個人差がある



スキルラボを利用した

「BSLプライマリーコース」(5年次)

「BSLアドバンスコース」(6年次)

これらの臨床実習における基礎診断能力の
円滑な習得と臨床研修への橋渡しのために
医療人育成・支援センターが設立された。

コア・カリキュラム 入学

• ○内の数字は学年

• **赤字**は特に
独自性が高い取り組み

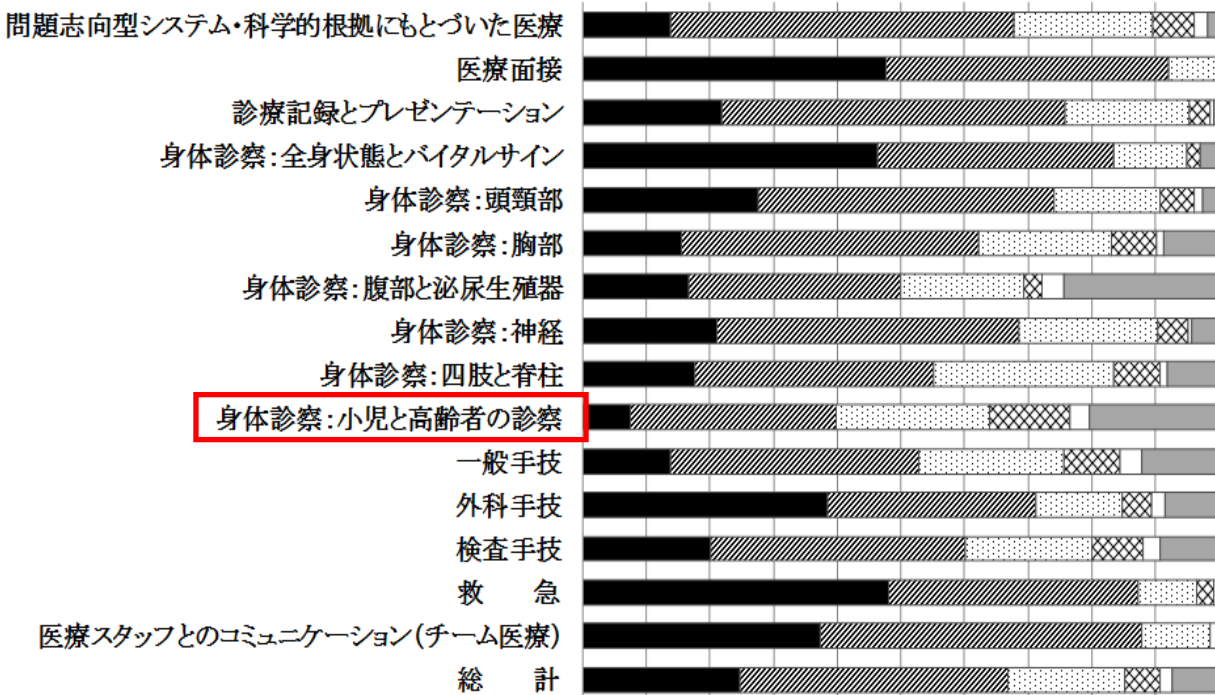


コアカリを有効活用した教育の実施状況例

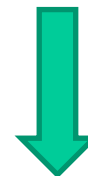
©) 基本的診療能力の確実な習得

臨床実習後の臨床能力自己評価

0 20 40 60 80 100%



習得が不十分な項目が明確になる



解決策

スキルラボの導入
実習手帳の導入

■よくできる ▨ある程度できる ▩どちらともいえない
 ⊠あまりできない □ほとんどできない ■経験がない

「医学教育モデル・コア・カリキュラム
 ー教育内容ガイドラインー（平成19年度版）」
 を基に、本学で実技教育の学習目標を設定



福島県立医科大学スキルラボラトリー

© 基本的診療能力
の確実な習得

スキルラボ・ベーシック



スキルラボ・アドバンス



利用人数(2009年度)





能動的学習態度を醸成する臨床実習システム ～双方向性オールインワン実習手帳の開発～

© 基本的診療能力
の確実な習得

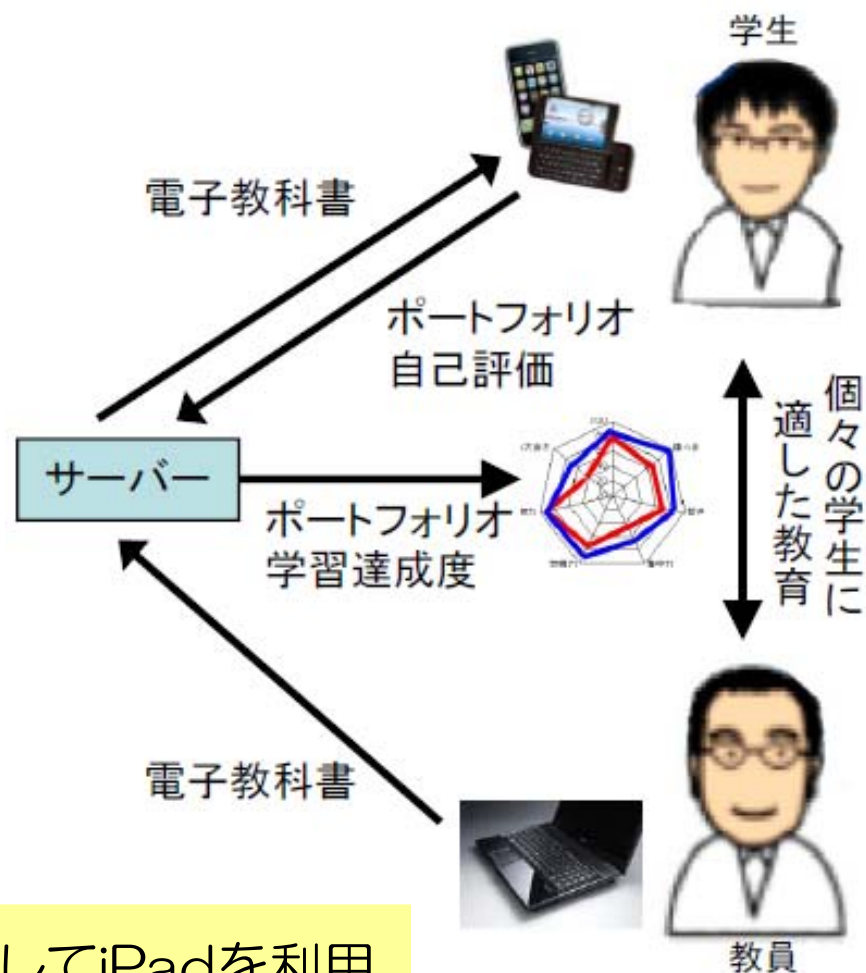
平成22年度「大学教育・学生支援推進事業大学教育推進プログラム」採択

大学病院・地域基幹病院と医学生が
広いエリアで臨床実習を行っている
中、**コアカリキュラムの円滑な実施**
のために本システムの導入を行う

セキュリティを守りながら大学
と学生を**双方向性**に結ぶ情報ネット
ワークの確立を行う

個々の学生に適した臨床実習
の推進を行うために臨床実習の
ポートフォリオを作成する。

学生が端末で自学自習し、臨床
スキルの到達目標を実感できる動画
を用いた**電子教科書**を配信する。

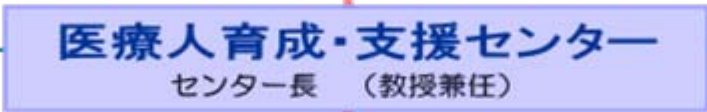


端末としてiPadを利用



医療人育成・支援センター

平成22年4月1日現在



医学教育部門

部門長 (教授兼任)
副部門長 (准教授)

- スキルラボ(シミュレーション教育)
- 模擬患者(SP)養成会
- Faculty Development(FD)
- English communication skill seminar
- 出前講座
- 学校見学
- 新たな教育手法の開発

(学生教育)

臨床医学教育研修部

部門長 (教授兼任)

副部門長 (准教授) 副部門長 (准教授)
(女性医師支援担当)

- 卒後臨床研修の充実
- 福島・良き医師を育むプロジェクト
- 医療・福祉体験プログラム
- 各種講習会・セミナーの開催と案内

女性医師支援センター

- 就業継続支援
- 育児支援
- 復職支援
- 共同参画意識醸成
- 個別相談支援

(研修医教育)

スタッフ

センター長 (兼任)	1
部門長 (兼任)	2
副部門長 (専任准教授)	3
助手・助教 (専任)	11
事務 (臨時嘱託含)	13
合計	30



医療人育成・支援センター事業イメージ

医学教育部門
医学教育部門

臨床医学教育研修部門
臨床医学教育研修部門



スキルラボ



模擬患者 (SP) さん養成会

・ 学校見学



海外研修事業



研修医レクチャー



福島・良き医師を育むプロジェクト

・ 全員参加FD講習会



Faculty Development

・ 出前講座



English communication skill seminar

女性医師支援センター

就業継続支援

育児支援

復職支援

共同参画意識醸成

個別相談支援

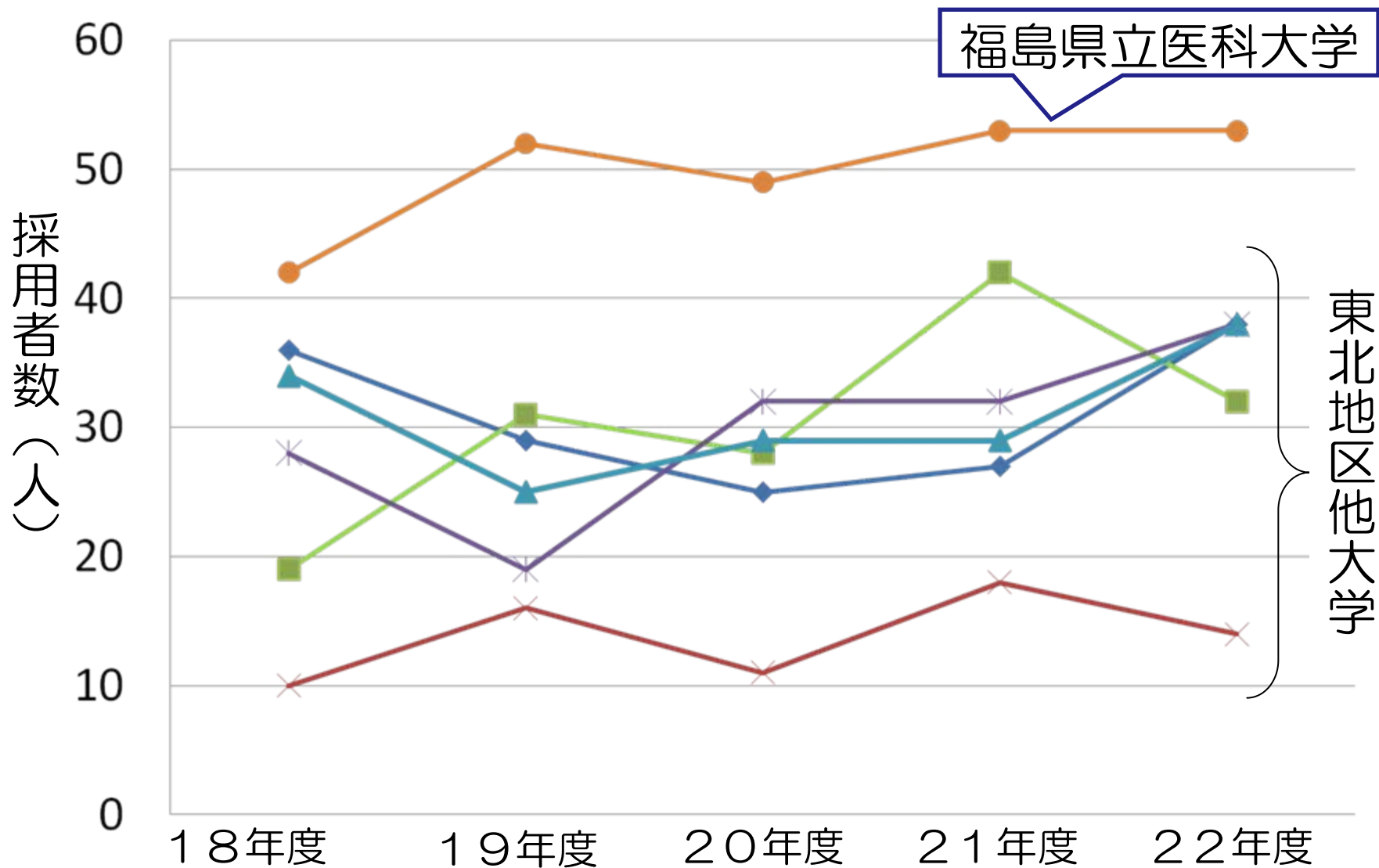


医療・福祉体験プログラム



6年一貫らせん型カリキュラムの成果

東北の大学病院後期研修医採用の状況



会津医療センター(仮称)開院

平成24年度末

